

公益社団法人日本青年会議所 2026 年度 基本方針

香川ブロック協議会 会長 伊藤 智也

ブロック協議会の 幸せな社会	<p>真の心でつながる希望と幸せに満ちた香川へ</p> <p>香川県には、地域にどんな困難があろうと、行政・企業・地域団体など多様な主体が青年会議所をハブとして連携し、真の心を持って互いを認め合い、仲間として支え合いながら取り組むつながりがあります。そこには、学び合い、切磋琢磨し、自律的に地域課題に挑戦するリーダーたちがいます。香川を愛し、当事者意識を持って地域課題を考え、理想の未来実現へと行動を起こす人財が増えることで、持続可能で誰もが幸せな希望ある社会を創造します。</p>
ブロック協議会の 役割	<p>香川ブロック協議会は公益社団法人日本青年会議所・四国地区協議会と連携し、地域課題の解決に向けた運動を家庭や地域を巻き込んで推進し、香川から全国規模の運動へと広げてまいります。また、県下 6LOM を支える総合調整役として、各 LOM の課題を丁寧に吸い上げ、必要な情報を的確に共有し、各 LOM の運動が円滑に実施できるように支援、連携します。</p>
ブロック連携事業 (政策手法)	<p>1.FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進</p> <p>香川県では、避難時の家族の集合場所や連絡方法を決めている家庭は半数に満たず、災害発生時に迅速かつ適切な行動をとれる備えが十分とは言えません。発生が懸念される南海トラフ地震などの大規模災害に備え、家庭の防災意識向上が必要です。まずは、香川大学や社会福祉協議会などと協力し、各家庭が FCP を策定する必要性を認識し、実際に家族内で話し合い、災害に備えるきっかけとなる事業を香川ブロック大会の事業として行います。また、メンバーにも FCP 策定を推奨し、各 LOM の防災対策の点検をはたらきかけ、香川ブロック全体で災害に備える機運を高めます。さらに、大規模災害時の避難を想定し、家族がレジャー感覚で楽しみながら学べる事業を行い、発災時にも平常心で行動できる自信を養います。これにより、家庭での安全確保を推進し、地域の防災基盤を強化し、持続可能で安心できる幸せな香川へとつなげます。また、本会及び四国地区協議会と連携し、香川から全国規模の運動へと広げてまいります。</p> <p>2.日常から始めるカーボンニュートラル推進事業</p> <p>香川県では、地球温暖化対策推進計画が進められており、県下の自治体でもゼロカーボンシティ実現に向けた宣言が出されていますが、県民のカーボンニュートラル認知度は 30%台にとどまっています。また、何をやれば良いか分からないといった声も多く、家庭での取り組みは十分に広がっていません。まずは、メンバーがカーボンニュートラルを学び、想定される影響や現在の対策を改めて県民に周知する事業を実施します。そして、気候変動やスポーツなどの身近なテーマと関連付け、子どもたちが理解し実践できるアクションを大学などの専門家の協力を得て行います。さらに、香川ブロック全体で推進体制を整え、各 LOM やメンバー自身が取り組むアクションを宣言し、事例を共有する場を設けます。また、本会及び四国地区協議会と連携し、香川から全国規模の運動へと広げてまいります。</p> <p>3.ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援</p> <p>2025 年度に香川ブロック全体のアカデミーメンバー比率が約 50%となり、アカデミーメンバーの育成は緊急性の高い課題となっています。香川ブロック協議会は、これまで様々なアカデミー事業を実施し、LOM やブロックを支える人財育成に注力してきましたが、アカデミー事業へのアカデミーメンバーの出席率は低迷しており、LOM 間でもアカデミー事業に対する温度差が生まれています。また、各 LOM の抱えている状況は大きく 3 つに分かれており、①会員数は安定しているがアカデミー比率が約 50%の LOM、②会員数が減少傾向にあり例会やブロック事業への出席率が低い重点連携 LOM、③2025 年度に急拡大し、約半数が新入会員となった要確認 LOM となっています。まずは、各 LOM の課題を丁寧に拾い上げ、ニーズを同定します。そして、全 LOM 共通の課題をテーマに扱い、同時にブロックの一体感も高めるブロッ</p>

	<p>クアカデミー事業を本会及び四国地区協議会と連携して実施します。LOM 間の交流を通じてブロック内の仲間と学び合い、支え合う関係性を築くことで、LOM やブロックの次代を担う人財を育成します。具体的には、2026 年 02 月に 6LOM 合同例会を活用し JCI Impact を実施します。そして、会頭訪問時には JC 版経営者セミナーを実施します。さらに、香川ブロック独自のアカデミー事業を 2026 年 02 月と 08 月に実施し、LOM 間の交流を通じてブロック内の仲間と学び合い、支え合う関係性を築くことで、LOM やブロックの次代を担う人財を育成します。また、高松青年会議所(日本青年会議所 監事 谷口 雄紀 君がアカデミー研修担当の委員長)、みとよ青年会議所(2025 年度 四国地区担当常任理事 大前 裕也 君がアカデミー研修担当の副理事長)が実施予定のアカデミー事業へのオブザーブ参加を香川ブロック協議会として支援します。</p>
<p>ブロック協議会 独自の事業</p>	<p>1.ニーズに応じた柔軟な LOM 支援の実施</p>
	<p>【背景】 香川ブロックでは全ての LOM が会員拡大やアカデミーメンバーの研修に課題を感じています。歴の長いメンバーが卒業したことで、アカデミーメンバーを指導する年長者や、多くの経験を有して今後の目標となる役職者と接する機会が減ってきています。また、各 LOM の抱えている状況がそれぞれ異なっており、画一的なアカデミー研修だけではメンバーの成長につながっていません。</p> <p>【目的】 アカデミーメンバーが LOM の理事やブロック役員を自分から目指したいと思う環境整備をします。また、青年会議所に入会すれば地域からも仲間からも憧れられる人財に成長するイメージを醸成し、さらなる会員拡大につながる好循環を目指します。</p> <p>【手法】 まずは、各 LOM の課題を丁寧に拾い上げ、ニーズを同定します。そして、四国地区協議会や県内各 LOM シニアと連携し、香川ブロック協議会メンバーを対象に研修を推進します。重点連携 LOM の小豆島青年会議所やメンバーの研修に課題を感じている LOM と合同で会員拡大研修事業を実施します。また、急拡大したさぬき青年会議所に対して、LOM の実情に応じたアカデミー研修事業を実施し、メンバーの定着と成長を支援します。さらに、2025 年より始まった香川ブロック協議会が調整役となり各 LOM の主要事業に対して他 LOM から人的及び物的支援する取り組み(香川レンチョウ)を 2026 年度も実施します。</p>
	<p>2.JC カップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会の開催</p>
	<p>【背景】 少子化により子ども同士のつながりが希薄化し、協力や挑戦を学ぶ機会が不足しています。また、同世代で互いに学び合う場も少なく、自身や仲間、他者の振る舞いから学ぶ経験が限られています。</p> <p>【目的】 サッカーを通じて協力し合う大切さを体感し、思いやりや挑戦する姿勢を育みます。また、仲間と切磋琢磨し、自律的な成長とリーダーシップの素地を養います。</p> <p>【手法】 香川ブロック予選大会を開催し、試合前後の交流や合同練習を通じて学び合いと尊重の姿勢を育成します。監督や保護者へ感謝を伝える場を設け、グッドルーザー精神を身につけ、未来を担う人財の育成につなげます。</p>
	<p>3.香川ブロック大会坂出大会の実施</p>
<p>【背景】 人口減少や地域コミュニティの希薄化が進むなか、地域の持続可能性を高めるためには、家庭というコミュニティの最小単位から意識を変え、住民一人ひとりが地域課題に当事者意識を持つことが必要です。</p>	

	<p>【目的】 各 LOM メンバーを含む県民が、自らの暮らしと地域課題が密接に結び付いていることを認識し、課題解決に向け自律的に行動できる人財育成のきっかけをつくります。また、行政・企業・地域団体など多様な主体がともに学び合い、支え合う、つながりづくりを行います。</p> <p>【手法】 各 LOM メンバーや県民が香川県内の地域の特色や課題を学ぶ機会を提供します。まずは、記念式典、記念事業を通して、当事者意識を持って地域課題を考える機会を創出します。そして、家庭や地域で取り組める防災・環境・教育など、具体的な行動につながる事業を実施します。地域のつながりを深め、次世代リーダー育成の土台を築くことにより、希望と幸せに満ちた香川へとつなげていきます。</p>
<p>ブロックによる LOM 支援の実施内容</p>	<p>1.各 LOM の主要事業に対する他 LOM からの人的及び物的支援の調整(香川レンチョウ) 2.少人数 LOM や急拡大した LOM のニーズに応じた柔軟な研修や支援 3.全 LOM 理事長とのミーティングを行い日本青年会議所との懸け橋となる</p>
<p>前年度より引き継いだ重点連携 LOM</p>	<p>小豆島青年会議所</p>